

# 林業界における女性の在り方

長野県林業大学校 2学年 ○一柳 きくの  
○岩田 つむぎ

## 要旨

長野県林業大学校の学生は9割が男子、1割が女子です。実際、林業の現場でも男性従事者が多く、\*94%を占めています。男性社会のイメージが強い「林業」という職業の中で、「女性の立場」で活躍するためには何ができるか、長野林大に入学して実習や勉強を通して考えました。

林業界に存在するいろいろな問題（雇用や環境）の中で女性なりの林業を展開することができれば良いのではないかと思い研究に至りました。

\*出典：林野庁 「林業・木材産業の働き方をめぐる現状の整理」

## はじめに

女性の雇用主・従事者の意見を聞くためにインタビューをさせていただきました。質問内容としてはQ1, 就職した動機 Q2, 今後の林業に関する要望 Q3, 女性が働くことのメリット です。

また、世間の林業と女性に対するイメージとインタビュー内容とのギャップを知るためにアンケート調査を行いました。

## 1 研究内容

### (1) インタビュー

まずは女性の雇用主・従事者の意見を聞きました

#### Q1. 就職した動機

「木を扱う仕事に興味を持つようになったから」

「自然が好きで単純に山の仕事がしたかった」という回答をいただき、私たちが当初考えていた回答よりもずっと自然が好きで林業の世界に入りたい・知りたいというシンプルかつ強い気持ちがあるのを感じました。

#### Q2. 今後の林業に関する要望

「生産性・効率性は考えずに、女性が主体となって林業（方向性）を導く」「機械化の促進」という回答をいただきました。

現状に改善を求めるのではなく、女性は女性なりの林業の環境をつくっていくことも必要なのではないかと感じました。

一方で、産業として林業が成り立っていくには生産性・効率性を重視した林業は重要である。だからこそ現時点で「現状を変える」ではなく自ら「作る」ことが必要なのではないかと思います。

#### Q3. 女性が働くことのメリット

「女性ならではの感性を活かす＝林業を伝えること」「女性が自然の中で生きることで、林業という形にとらわれることなく生かし伝えることができる」「体力的な差があるため安全面に気を配りやすい」女性が林業界にいて、上記のような林業を通じて自然を活用しそれらを伝えるという展開ができると思われま

しかし、それが林業界にとってメリットなのかデメリットなのかは今回の研究からは明らかにできま

せんでした。

ただ、女性は男性にできない生命を育む（子どもを産む）ということが出来ます。母性的であったり保守的であるところをはじめ、感性が豊かな人が多いのではないかと考えます。そこが男性と女性の違いの一つなのではないかと思えます。

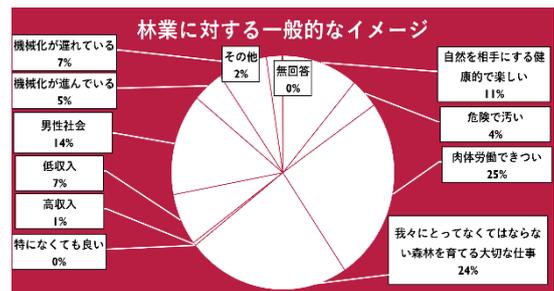
## (2) アンケート

彼女らの話を聞いていくなかで、世間の林業と女性に対するイメージとインタビュー内容にはギャップがあるのかを知りたいと思いアンケート調査を行いました。

### 1. 林業という仕事についてのイメージ (図1)

最も多かったのは「肉体労働できつい」という回答でしたが、次点で「我々にとってなくてはならない森林を育てる大切な仕事」という回答も多かったです。

林業というものに対し、世間は肉体的で大変だが大切な仕事である、と認識しているように思われます。



(図1)

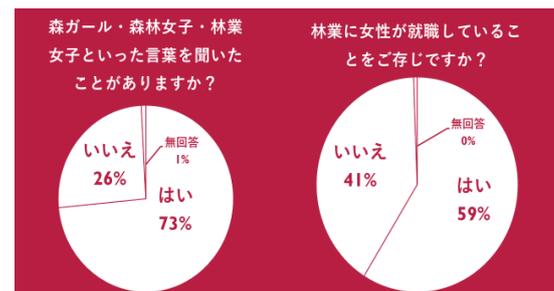
### 2. 森ガール、森林女子、林業女子という言葉を知っているか (図2)

### 3. 林業従事者における女性の割合は6% (H27) と低いながらも、林業に女性が就職していることを知っているか (図2)

このふたつの質問に関しては年代別に見ると、50代までは知っている人と知らない人の割合は半々くらいでしたが、60代以降は知っている人の割合が多くありました。

また男女別にみて、女性は「はい」と回答した人が多かったようです。

60代以降の認知度が高いのは、戦後の林業を支えてきた先人の存在が身近だったからではないかと思われます。

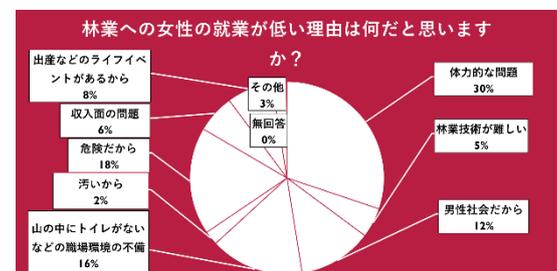


(図2)

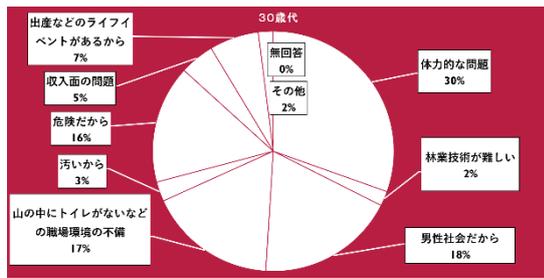
### 4. 林業への女性の就業が低い理由 (図3)

最も多いのは「体力的な問題」であり、これは男女別、年代別に見ても同様でした。次いで多かったのは「危険だから」という回答でした。

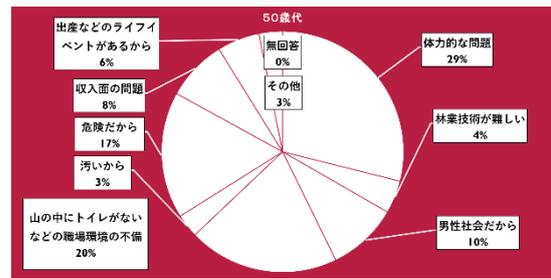
しかし30代には「男性社会だから」、50代と70代には「山の中にトイレがないなどの職場環境の不備」の回答も多く、やや回答に違いがみられました。(図4) (図5)



(図3)



(図 4)

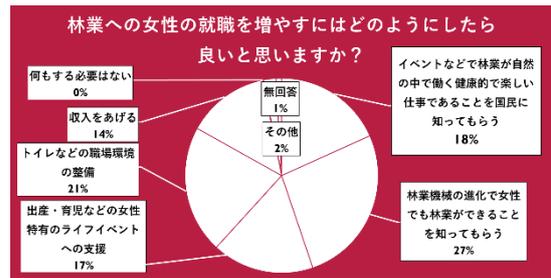


(図 5)

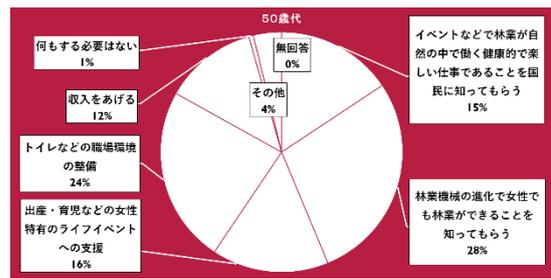
### 5. 林業への女性の就職を増やすにはどのようにしたら良いと思いますか (図 6)

もっとも多かった回答は、「林業機械の進化で女性でも林業ができることを知ってもらう」でした。

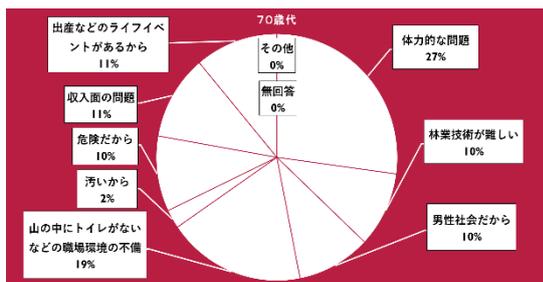
また、男女別にみた回答傾向でも、男女ともに「林業機械の進化で女性でも林業ができることを知ってもらう」の回答が最も多く、次にトイレなどの職場環境の整備が多くありました。全体的には「林業機械の進化で女性でも林業ができることを知ってもらう」の回答が多いですが、50代の回答は「イベントなどで林業が自然の中で働く健康的で楽しい仕事であることを国民に知ってもらう」が、(図 7) 80代の回答は「収入を上げる」が多く、年代別に見ると意見に差があることがわかりました。(図 8) (図 9)



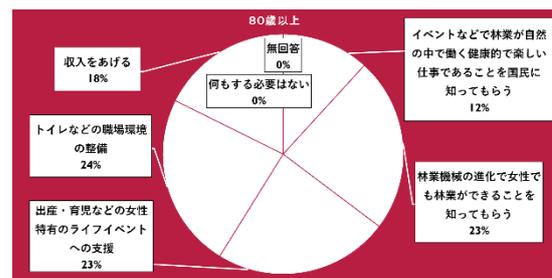
(図 6)



(図 7)



(図 8)

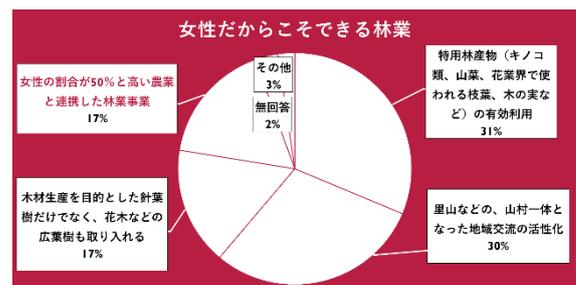


(図 9)

### 6. 女性だからこそ参加できる林業(=狭義にとらわれない林業)とは、どんなものか (図 10)

全体的にみて、「特用林産物の有効利用」という回答が最も多く、次に「里山などの山村一体となった地域交流の活性化」の回答が多くありました。

これらの回答は年代別にみても大きな差はみられませんでした。



(図 10)

しかし、男女別の回答では、男性は「里山などの山村一体となった地域交流の活性化」が最も多く、次に「特用林産物（キノコ類、山菜、花業界で使われる枝葉、木の実等）の有効利用」が多くありました。

女性はその逆で、「特用林産物（キノコ類、山菜、花業界で使われる枝葉、木の実等）の有効利用」が最も多く、次に「里山などの山村一体となった地域交流の活性化」が多くありました。

## 2 結果・考察

結論として、会社の営業指針、実際の現場の様子、それに反して世間は女性の意欲次第で仕事に就けばよいのではというイメージのギャップが存在することがわかりました。

私たちの想像よりも世間の意見のすべてが否定的というわけではありませんでした。

そこで大切なのは「女性でもできる林業」を展開していくことだと考えます。

現在の第一次産業は厳しい状況に置かれています。戦後、燃料革命（薪炭材等）などの時代の変化によって再造林された森林の整備や活用方法が十分ではなく、また海外からの安価な材の輸入により国産材の需要が低い現状にあります。

技術者の高齢化が進み担い手が少ないことから山の施業・整備が追いついておらず、施業に使われていない山はたくさんあります。

今、活動できるフィールド（里山）があるのに活用できていないと感じます。

それは里山の過疎化によって森林に出入りすることすら少なくなったからであります。

以前は里山として人々に使われていたが時代の変化によって森・里山とかかわる文化が減ってきています。里山の過疎化は所有森林の境界線の不明につながり、境界の不明な森林が増えることで放置林が増えるという悪循環になってしまおうと考えました。

そこで、そういった使われなくなった里山を活用し、女性が主体となった森づくりをしたらよいのでは？ と考えました

効率性・生産性にこだわらない林業

例えば、

- ・樹木一本一本を大切にすることや枝・葉を最大限に有効活用することを重視した林業。
- ・女性特有の「かわいい」を重視した森林活用の仕方、これらを老若男女問わず伝える林業教育（育むことができる力を利用する）
- ・農業や他分野とつながった幅が広い林業など

このような林業こそ女性が主体となって「方向性」を導くことができる林業になると思います。そのような林業が展開できれば女性が活躍しやすいだけでなく、世間にも林業についての理解が広まるのではないかと私たちは考えています。